

非鉄金属市況と需給動向

平成30年4月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金）

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

前半は貿易摩擦の懸念で上昇傾向、後半は米国経済指標好調などによるドル高で下落傾向

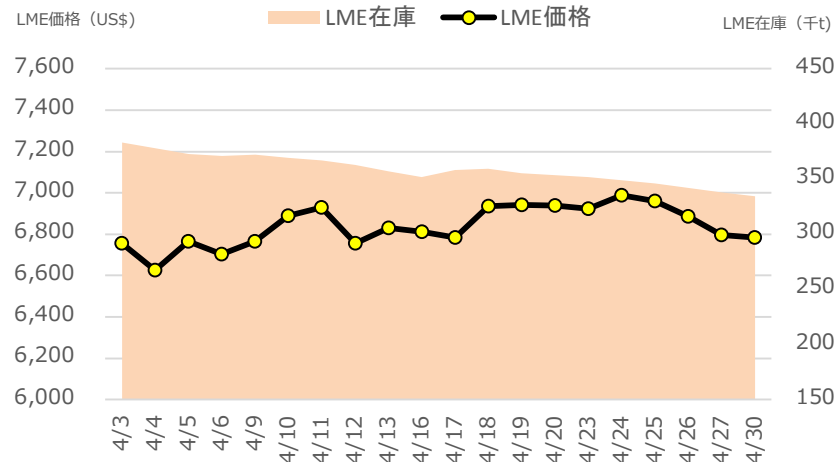
■ LME価格

- ① **米国の経済制裁による米中の応酬が続く**：前月30日発表の中国3月製造業PMI(51.5)が予想を上回る内容だったことから、6,756.0US\$/tでスタート。その後、米国の経済制裁に伴う米中間の応酬に市場が反応、価格は小幅に上下しながらも、ドル安の進行もあり6,930.5US\$/tに上昇した(11日)。
- ② **くすぶる貿易摩擦の懸念**：米国のシリア攻撃示唆を巡る警戒感後退などによりドル高に振れたことから、12日には6,756.0US\$/tに下落。その後、17日の中国1~3月期GDPの発表を前に小幅な値動きが続き、発表されたGDP成長率が前年同期比6.8%増と予想を上回ったにも関わらず、貿易摩擦の懸念が解消されていないという見方から価格は下落(6,784.0US\$/t)。翌18日には6,936.0US\$/tへと反発し、その後は小幅な動き。
- ③ **米国経済指標好調などによるドル高で下落傾向**：23日以降、米国経済指標の好調さなどを受けドル高が進行。4日にはチリEscondida銅鉱山において労働条件に関する経営側と労働者側の話し合いが6月まで長引くという報道を受け、ストライキ懸念がくすぶり一時6,987.0US\$/tに上昇したものの、25日以降は再びドル高進行に伴い下落傾向を辿り6,783.0US\$/tで越月。

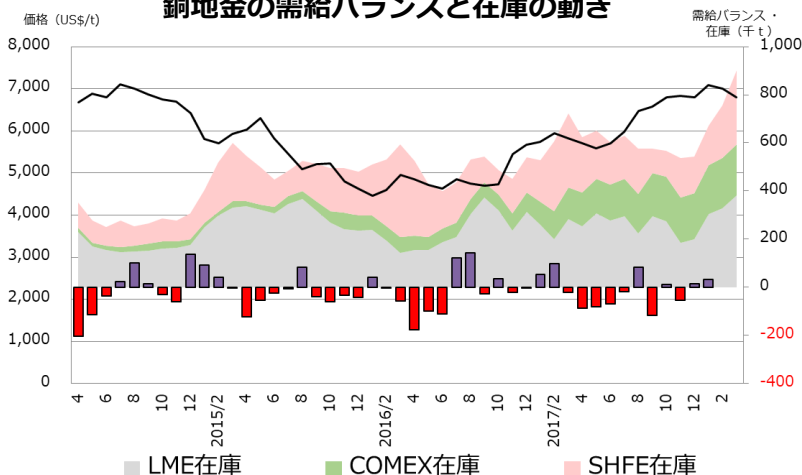
■ 需給動向

- ・国際銅研究会(ICSG)(春季)予測は2018年**4.3万tの供給過剰**、2019年**33.1万tの供給不足**。また、2017年は**25.4万tの供給不足**と発表。
- ・中国生態環境部他は、輸入禁止固体廃棄物目録の第7類に分類される銅スクラップの輸入を2018年12月31日に禁止すると公告(4月19日)。

当該期間の値動き



銅地金の需給バランスと在庫の動き



(出典：ICSG)

中国需要減退懸念等を受け下落傾向を辿る

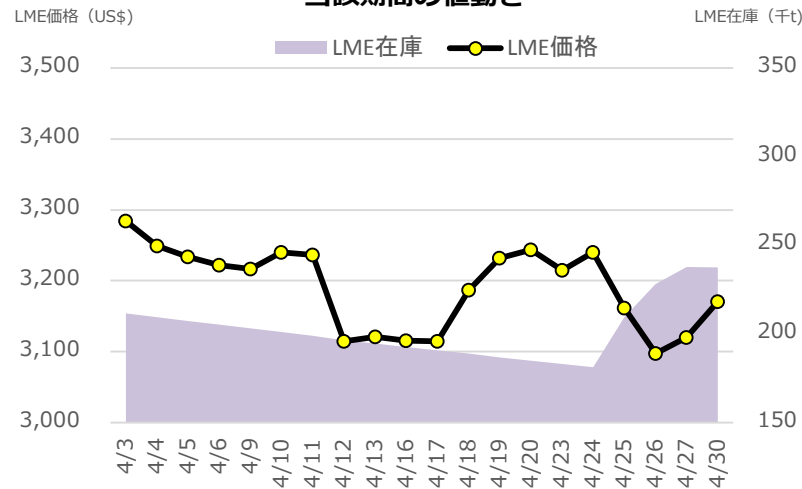
■ LME価格

- ① **米中間貿易摩擦懸念の再燃を受け軟調に推移**：当該期間3,284.5US\$/tでスタートした亜鉛は、中国が米国の貿易制裁に対する報復措置を公表したことや、5日にはトランプ米大統領が中国製品に対する追加関税を課す考えを示したことで、上旬は貿易摩擦の懸念に伴う需要減退懸念が再燃し軟調に推移。
- ② **中国需要減退懸念から下落するも在庫の減少を好感し回復**：中旬は、中国国内建設需要が低調であるとの見方が広がり下落したものの、その後、LME在庫・SHFE在庫の減少が好感され回復した。
- ③ **ドル高基調と在庫の増加が重しとなり下落傾向を辿る**：下旬は、米国経済指標の好調さなどからのドル高進行が嫌気されて下落傾向を辿り、26日には当該期間最安値の3,098US\$/tを付けた。月末にはやや値を戻し、3,171US\$/tで越月した。

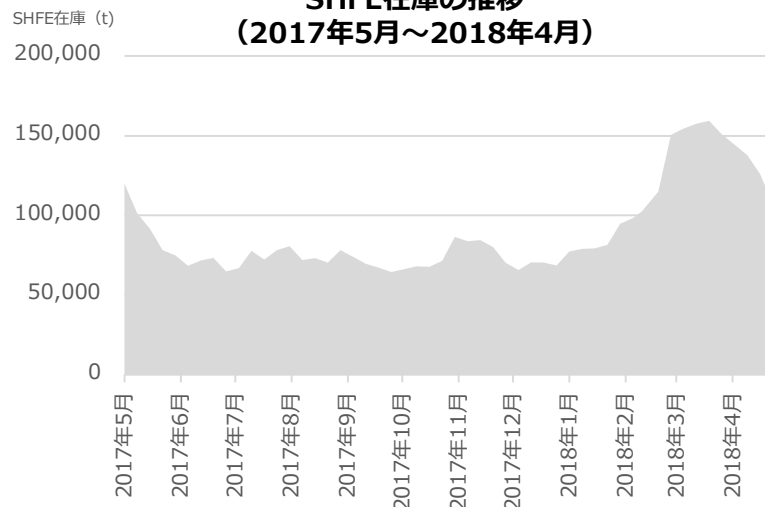
■ 需給動向

- 📌 国際鉛亜鉛研究会(春季)の予測では2017年は**46.5万tの供給不足**、2018年は**26.3万tの供給不足**。
- 📌 主要鉛山操業状況：Teck社はRed Dog鉛山の亜鉛生産量について今後5年間は525～550千t/年に達する見通し及びブライヴ延長を発表（2017年9月18日）。MMG社は豪・Dugald River鉛山の鉛石出荷開始を発表（同11月8日）、また豪・Century鉛山の尾鉛からの亜鉛採掘計画を発表（同11月28日）。GlencoreはLady Loretta鉛山の2018年上半期再開計画を発表（同12月12日）。

当該期間の値動き



SHFE在庫の推移
(2017年5月～2018年4月)

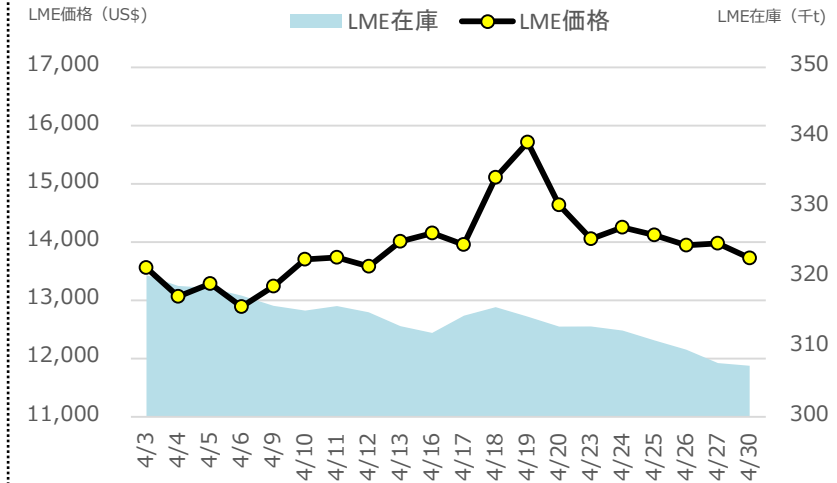


米国の対ロシア制裁に起因した供給懸念が広がり3年3か月ぶり高値

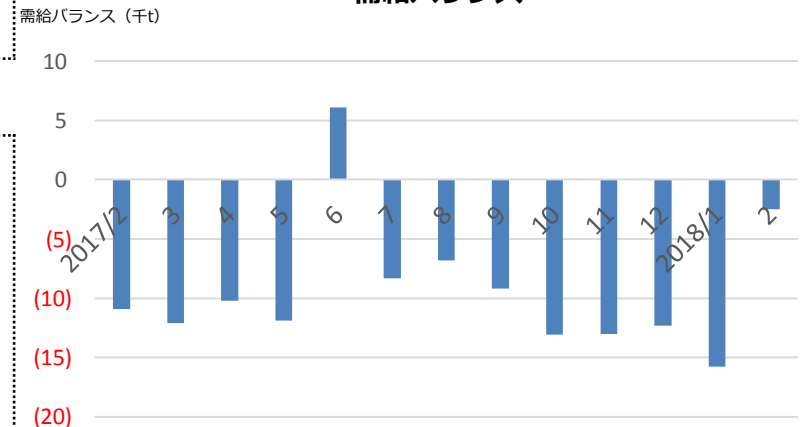
■ LME価格

- ① **米中間の貿易摩擦懸念などから下落傾向**：中国3月の製造業PMIの底堅さなどにより、13,560US\$/tでスタートしたものの、米中間の貿易摩擦への懸念などから上旬は下落傾向を辿り、6日には12,890US\$/tと13,000US\$/tを割り込んだ。
- ② **米国の露Rusal社制裁に起因した供給懸念から上昇**：9日以降は、米国がアルミニウム生産大手の露Rusal社を制裁対象に加えたことを受け、同社が露ニッケル生産大手Norilsk社株を保有することから波及が懸念され、ニッケル供給不安が高まり上昇傾向に転じた。その後も、米国シリア攻撃示唆を巡る米露関係緊迫化が懸念される中、一時値を下げつつも上昇傾向を辿り、18日には15,105US\$/tに上伸、翌19日には当該期間最高値となる15,710US\$/tまで上昇、約3年3か月ぶりの高値をつけた。
- ③ **米国の対露経済制裁の影響懸念が一服し下落、以降は軟調推移**：米国の対露経済制裁の影響拡大懸念が一服したことで20日に大幅下落、23日には米国経済指標の好調さなどを受けてのドル高進行も圧迫材料となり14,050US\$/tまで値を落とした。その後もドル高傾向などを反映し軟調推移し13,725US\$/tで越月。

当該期間の値動き



需給バランス



■ 需給動向

- 🚩 国際ニッケル研究会(春季)予測では2017年は11.5万t、2018年は11.7万tの供給不足。
- 🚩 主要鉱山操業状況：フィリピン環境天然資源省が国内23鉱山の閉鎖・5鉱山の生産一時停止を命令（2017年2月2日）。ValeがカナダBirchtree鉱山閉鎖計画を発表（2017年5月17日）。First Quantum Mineralsが豪Ravensthorpe鉱山の9月閉鎖を発表（2017年8月11日）。Independence Group社は豪Long鉱山の坑内掘り採掘活動の2018年5月末終了を発表（2018年1月31日）。
- 🚩 フィリピン新環境天然資源大臣にRoy Cimatu氏を任命（2017年5月8日）

(出典：INSG)

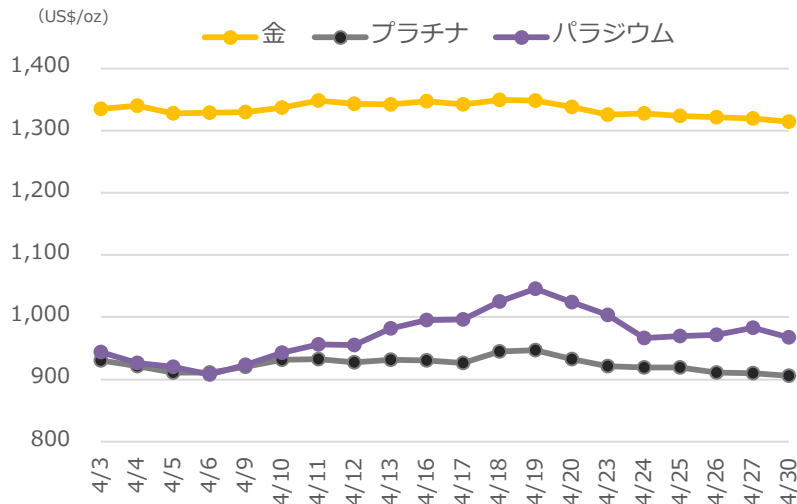
金・プラチナ・パラジウム

白金族は対露制裁を巡る供給逼迫懸念から一時上昇

■金

- ① **米露関係緊迫化懸念に伴い緩やかに上昇後、ほぼ横ばい推移**：当該期間1,335US\$/ozでスタートした金は、月初に後退した米中貿易摩擦懸念がその後再燃したことや、米国のシリア攻撃示唆に伴う米露関係緊迫化懸念が材料となり、上旬は緩やかに上昇。中旬は、米国のシリア攻撃示唆を巡る警戒感が一服し小幅に下落した後、ほぼ横ばい推移した。
- ② **地政学リスクの後退やドル高基調が下方圧力となり軟調に推移**：下旬は、北朝鮮が米国との首脳会談実現を検討しているとの報やシリア情勢の緊張緩和を受け、安全資産としての需要が弱まり軟調に推移。また、米国経済指標の好調さなどからドル高が進行、これが圧迫材料となる中、下落傾向を辿り1,314.7US\$/ozで越月。

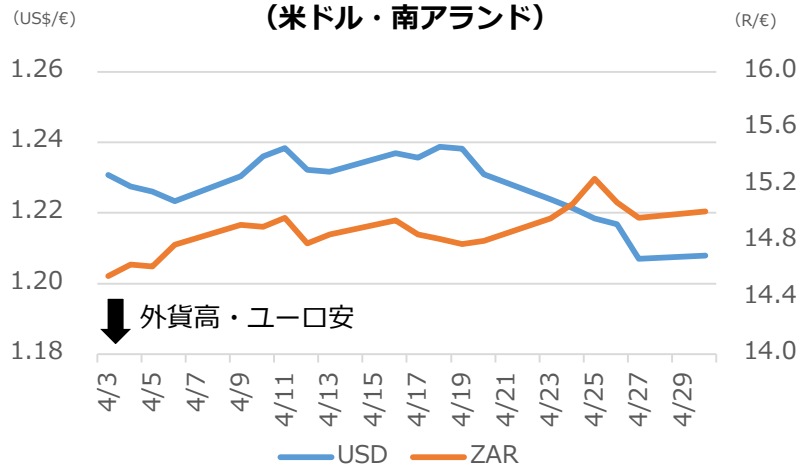
当該期間の値動き



■プラチナ・パラジウム

- ① **プラチナ：ドル高を背景に概ね軟調に推移**：プラチナは当該期間930.5US\$/ozでスタート。上旬はドル高地合いが嫌気され軟調に推移した。中旬は、米国が露Rusal社を制裁対象に加えた報道を受けて、白金族の生産も行っている露Norilsk社にまで対象が拡大することへの懸念が高まり、供給不安から緩やかに上昇した。下旬はドル高の進行が下方圧力となり緩やかに下落し、906US\$/ozで越月した。
- ② **パラジウム：供給タイト化懸念を受け1,000US\$/ozを超える**：当該期間943.5US\$/ozでスタートしたパラジウムは、上旬はドル高地合いが下方圧力となり6日には2017年9月以来の安値を付けた。中旬は露Norilsk社への制裁拡大が懸念される中、供給タイト化の懸念が広がり上昇傾向を辿り、19日には1,045.5US\$/ozをつけた。下旬は、米国経済指標の好調さなどを受けてのドル高基調が圧迫材料となる中、緩やかに下落し968US\$/ozで越月。

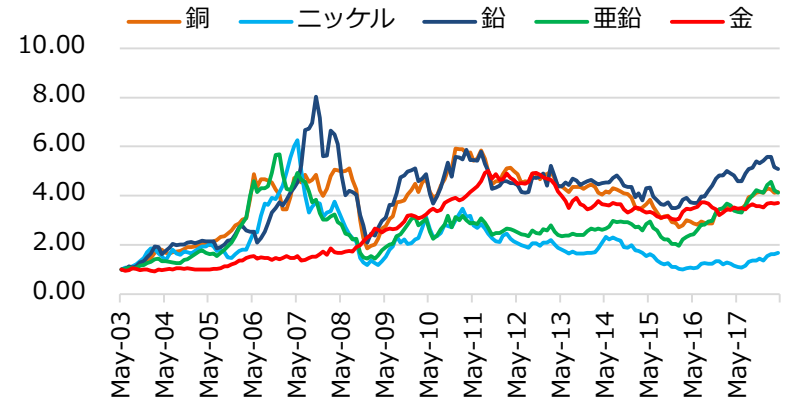
ユーロに対する為替の値動き
(米ドル・南アランド)



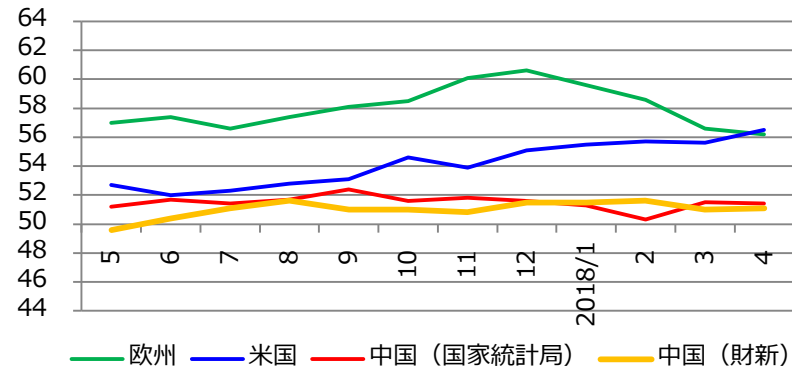
(European Central Bank)

		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期初	6,756.0	3,284.5	13,560	1,335.0	930.5	943.5
	期末	6,783.0	3,171.0	13,725.0	1,314.7	906.0	968.0
	最高値	6,987.0	3,284.5	15,710.0	1,349.0	946.5	1,045.5
		4月24日	4月3日	4月19日	4月18日	4月19日	4月19日
	最安値	6,625.0	3,098.0	12,890.0	1,314.7	906.0	907.5
		4月4日	4月26日	4月6日	4月30日	4月30日	4月6日
	平均	6,838.6	3,190.9	13,934.5	1,334.6	924.0	970.3
先物 (4月30日)	3か月	6,820.5	3,170.5	13,770.0	-	-	-
	Dec 1	6,960.0	3,085.0	14,015.0	-	-	-
	Dec 2	6,980.0	2,985.0	14,085.0	-	-	-
2018年 (当年)	期初	7,181.0	3,377.0	12,690.0	1,312.4	936.5	1,079.0
	期末	6,783.0	3,171.0	13,725.0	1,314.7	906.0	968.0
	最高値	7,202.5	3,618.0	15,710.0	1,357.6	1,020.0	1,128.5
		1月4日	2月16日	4月19日	1月25日	1月25日	1月15日
	最安値	6,755.0	3,350.5	12,415.0	1,312.4	906.0	907.5
		2月9日	1月3日	1月17日、1月18日	1月2日	4月30日	4月6日
	平均	6,931.1	3,365.6	13,434.5	1,331.1	964.9	1,020.2

主要非鉄金属の価格推移
(2003年5月=1)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



米国経済	4月の製造業PMI改定値は56.2（前月確定値：56.6）。5/4労働省発表の4月非農業部門雇用者数は前月比+16.4万人（前月：+13.5万人）と市場予想の19.2万人増を下回った。失業率は3.9%（前月：4.1%）と低下した。
中国経済	4月製造業PMIは、国家統計局発表が51.4（前月：51.5）と下落、財新/Markit発表の速報値は51.1（前月：51.0）と上昇。
欧州経済	4月製造業PMIは、確定値56.5（前月確定値：55.6）と上昇。